FUJIFILM

the 50th anniversary
50回記念

2013 富士フイルム 営業写真コンテスト作品集

CONTENTS　2013 富士フイルム営業写真コンテスト作品集 ［NO.181 2013］

第50回富士フイルム営業写真コンテストによせて

2013富士フイルム営業写真コンテストは、50回という記念すべきコンテストになりました。
1960年の第１回目から50回まで延べ17万人以上の方々から58万点を越える作品を応募いただきました。写真館の皆様に支持され、目標にしていただけるまでになったのも、ひとえに「写真館様に育てていただいた。」ということにつきます。改めて御礼申し上げます。
富士フイルムは、1934年の創業以来、「写真文化」の普及・発展に向けて一貫して取り組んでまいりました。写真として残し、写真のすばらしさ、楽しさ、感動を伝えることで「写真文化」を守り育んでいくことは、富士フイルムの使命であると考えています。
写真として残す営業写真の文化を継承していくためにも、今後とも富士フイルム営業写真コンテストに応募いただき、さらなるご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

富士フイルム株式会社
代表取締役社長・COO
中嶋成博

表現の幅が拡がり、ますますレベルアップ

◆2013富士フイルム営業写真コンテストの入賞作品集をお届けします。今回は50回の記念コンテストとなり応募総数11,190点（前年比101％）、応募者数3,454人（前年比103％）となりました。
応募作品の全体の傾向としては、より自由な表現に挑戦した作品も多く、次の時代の写真館を目指す意欲が感じられました。デジタル化の進展によりデジタルならではの新たな発想による「デジタルだから撮れる写真」も多く見受けられ、表現の幅が確実に広がってきています。また、デジタル撮影でありながら、フィルムでの表現を追求しているような作品も見受けられました。その写真館でしか撮れないという独創的な写真も多くなってきており、頼もしい傾向といえます。
プリント品質も全体的に向上し、写真館、ラボの品質向上への継続的な努力の成果が出ています。
◆作品の傾向について
◎マタニティーフォトも表現スタイルが多様化し、より家族写真のひとつのジャンルとして定着してきた感があります。お腹そのものを出すのではなく、マタニティードレスやＴシャツでの撮影や、シルエットで表現する傾向も見られました。マタニティーフォトもセカンドステップになったとの印象がありました。
◎特に家族写真の応募が増えました。なかでも“お父さんと一緒のポージング”が目を引きました。「お父さんを写し込もうと思ったら、写真館に行くしかない」というシンプルな理由かもしれません。ここには大きなマーケットがあるので、技術を磨いて家族写真に力を入れていく必要があるのではないかと思われました。
◆さて、審査時に気になった点を紹介します。
◎ピント不良が多く見受けられました。カメラ任せにしてピントをしっかり確認せずに撮影している傾向が見られました。
◎ブライダル写真で、飛んだり跳ねたりしているスナップ写真が散見され、アルバムのなかの１枚としてはよいかもしれないが、１枚で表現する写真としてはどうか？と疑問符が打たれるものがありました。
◎良い表情、良いタイミングで撮影しているのに、ピントやライティングなど、基本的な技術が確立されていないことで、非常に損をしている写真が多く見られました。
上記の内容はお客様がなぜ写真館に行くのか？　そこをしっかり考えて、その目的に応じてプロの力量を発揮してほしいと感じられました。
写真館の写真は家族の宝物になります。その宝物を、プロ意識を持って創り上げていくことが今後ますます求められます。次回もまた意欲あふれる作品を期待します。
◆今号では50回の軌跡をたどり、これまでの経緯と歴代金賞受賞者の方々をご紹介します。

掲載順は賞の順、写真館様所在地の北から都道府県順、同一都道府県内は郵便番号順で掲載しています。優秀賞・テーマ賞は紙面のレイアウト上、掲載順にずれが生じる場合があります。

特集
2013富士フイルム営業写真コンテスト入賞発表

●金賞……1
●銀賞……2
●銅賞……7
●フロンティア賞……17
●優秀写真アルバム賞……18
●優秀賞……20
●テーマ賞……24
（婚礼写真）
●テーマ賞……28
（入園卒園・入学卒業写真）
●テーマ賞……32
（成人式・七五三写真）
●テーマ賞……36
（ポートレート写真）
●テーマ賞……40
（子供ポートレート写真）
●テーマ賞……44
（家族写真）
■金賞作家を訪ねて……48
■50回の軌跡……50
■INFORMATION
富士フイルム営業写真コンテスト
表彰式開催……52

金賞

「フォトグラファー スダ」　オヌキ ヒサシ　Bliss（東京）

データ：デジタル一眼レフ　F3.2　1/160　ストロボ

■選評

男性ポートレートですが、非常に大胆なトリミングとライティングで、個性あふれるお洒落な写真に仕上げられています。さりげなく撮っているように見えますが、構図はもちろん、空間処理、肩のラインの出し方など、繊細な気遣いが感じられ、作者の高い感性と優れた技術力が発揮された秀逸の作品といえます。写真には、自然な姿をそのまま写す撮り方と、カメラマンが主体性を持ってプロデュースする手法がありますが、これは後者で、被写体と綿密なコミュニケーションをとり、そして作者の感性がプラスされてできた写真だと思います。なによりメガネや帽子の端をフレーミングでカットしていることで、躍動感やチャレンジするパワーなどを感じさせ、「被写体の表現はこれしかない」といった“オンリーワン”を感じさせます。新しい写真館の一つの姿といえるかもしれません。

■喜びの声

念願の富士フイルム営業写真コンテスト金賞をいただくことができ、これまで支えてくださった多くの皆様、そして愛する家族に心から御礼申し上げます。今年は、この富士フイルム営業写真コンテストも第50回目ということもあり、私のような異端児がこのような賞を得たのも、これから写真館業界も変わっていくという象徴のようなものだと思っています。
私は、つねに被写体の魅力を引き出すことを考えて、撮影しています。イメージカウンセリングをして、本人の魅力を私たちが感じ、その魅力を最大限に引き出す、ライティングや構図、アングルでその被写体を表現します。その中で最も大切なのは、時間をかけてカウンセリングすること、それが被写体の魅力を感じることだと思っています。
今回の被写体は、とても繊細な人でした。その繊細さ故に、彼が写す写真も、細かい部分まで気を使っているのがわかるくらい、繊細さが見えてくるようなものばかりです。黒い革ジャンに、黒いボルサリーノをかぶり、一見、厳ついイメージなのですが、そのギャップの中で、彼の繊細さを表現したいと思いました。柔らかい光を使いながらコントラストをつけ、黒もつぶれないようにしながら黒のディテールを細かく表現しました。また柔らかい光を使うことによって、彼の深い部分での優しさが表現できたような気がします。そして、大胆な構図にすることによって、ぎりぎりのところで生きている、彼の世界観も表現できたと思います。
わたしは、もっともっと写真のすばらしさを社会に伝えていきたいと思っています。その大きな夢に対して、今回の金賞は、一つの通過点ではありますが、背中を押してもらえたような気がしています。これを機に、社会に対しても写真のすばらしさを発信していきます。本当にありがとうございました。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

銀賞

「50才の記念に。」　矢吹尚也　㈲矢吹写真館（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　50㎜　F5.6 1/2　1/60　ストロボ

■選評

スクエアのなかに、白の空間を活かして二人のゆとり・安心感を感じさせてくれます。その微妙なバランス感覚はプロならではの技術といえます。顔の傾げ方や表情なども自然で好感が持てますし、よく見ると服装も男性の縦の線、バックルの四角、女性のＴシャツの丸い線と縞模様などの幾何学的な模様も、独特のリズム感を出していて、見ていて飽きない作品に仕上げられています。おそらく、作者は被写体に対して何も注文せずに、ありのままの姿を撮っているのだと思いますが、何気ない自然さのなかにプロのテイストが詰まった完成度の高い作品といえるでしょう。

■喜びの声

このたびは銀賞をいただきありがとうございます。
銀婚式を迎えられ、二人が共に50歳になった記念にと撮影した写真です。
ご主人は学生時代の友人であり、結婚式以来初めての二人一緒の撮影ということではるばる埼玉より日本最北端の当スタジオを訪れてくれました。
温厚で優しい性格の彼とふんわりとした奥様の醸し出す穏やかな空気感を表現したいと思い、二人を包み込むような光と真っ白な背景の中で撮影しました。
かつてロックバンドのギタリストとして激しく演奏していた彼の、鋭く尖った部分も表現したいと思い、二人のカットとは別人のように写ったモノクロも一緒にお渡ししました。
日々、色々な方々のさまざまな場面を撮影させていただく中、その全ての瞬間が「二度とない特別な時間」であることをこの撮影で改めて感じました。
古い友人に、「あれからこうやってきたんだよ…」と写真を通じて伝えられたことは、私にとっても記念碑的な撮影となりました。
富士フイルム営業写真コンテストも50回目を迎えられ、これまでの写真一つ一つに描かれた膨大な数の市井の人々の姿は、日本の50年間のドキュメンタリーにもなりうるのではと感じます。これからも、その流れのなかで仕事をさせていただく責任と誇りをもって撮影していこうと思います。
日頃、お世話になっている諸先輩、写真の良さを伝える会、北海道写真館連合会、北海道営業写真家協会、日本肖像写真家協会の皆様、㈱ロイヤルカラー様に厚く御礼申しあげます。
（制作ラボ：㈱ロイヤルカラー）

銀賞

「ニコラス 二十歳」　堤 賢一　伊勢丹写真室（東京）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-120㎜　F10　1/125　ストロボ

■選評

お洒落に着飾った個性的な方を、高度なテクニックと感性とで表現された優れた作品です。被写体のカメラマンの感性により、素直にお客様を捉え、よりお洒落に表現した点は、まさにプロの仕事といえます。お客様の要望なのかは別にして、こうしたポーズにして、しかも自然に見せている技術力は非常に高いものがあるといえます。洋服の襟、ネッカチーフ、帽子のハイライト、バックとの空気感など、営業写真として見せなければならないところはしっかり描写していることなど、随所にカメラマンの高いセンスが感じられます。

■喜びの声

50回の歴史を誇る富士フイルム営業写真コンテストで栄えある銀賞を賜りましたこと、感無量であり、厚く御礼申し上げます。改めてこの賞の重みを実感しております。このコンテストは私を成長させてくれる舞台であると思っています。１年間の集大成を再顧する機会をいただいております。私も知命五十を過ぎ、文字通り社会に対して何を為すべきか知り得る時期であると思います。いまだ復興が儘ならない東日本大震災の被災地ですが、震災当時、被災者の方々が瓦礫の中から探し求めたものは写真でありました。自衛隊、ボランティアの方々が丁寧に写真を回収されている映像が記憶に残っております。富士フイルム写真救済プロジェクトの皆様が中心となって洗浄復元にご尽力されました。つまり写真は命の次に大切なものなのです。私はこの写真を職業としております。写真を作ることを使命とした者として、微力ではありますが、『写真』で社会に貢献したい所存です。近頃は“縁”というものを感じております。作品のニコラス君に出会えたこと、優秀なスタッフに恵まれたこと、プロ魂でプリントを仕上げてくださるプロカラーラボの皆様、その積み重ねが今回の結果であると思います。皆々様に感謝申し上げ、今後も精進する所存であります。
最後になりましたが、病気療養中の金津重義先生の御快癒をお祈りいたします。金津先生が私の原点でありました。また不肖の社員の私を叱咤してくださった弊社社長に感謝申し上げます。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

銀賞

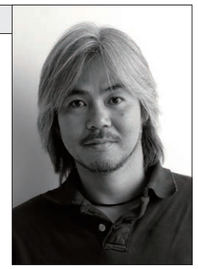
「しゅりちゃん」　佐々木宏和　佐々木写真館（愛知）

データ：デジタル一眼レフ　F5.6　1/125　ストロボ

■選評

「爽やか」かつ「可愛い」写真です。自然さを演出するために扇風機の風を使っていますが、これが非常に効果的で清々しさを強調しています。表情も、風が当たった時の心地よさ、楽しさが表れていますし、最適な風量により髪のなびき方もほどよく表現されています。また、スタジオライティングながらも、夏の季節感を出している点も素晴らしく、おそらく１灯ライティング＋レフ板で夏の光を作り出していると思われます。シャドーの表現も適切で、作者の光に関する高い感性が感じられます。バックにもたれかかって左足を上げているポーズは、躍動感も感じられ、爽やかさを引き立てています。

■喜びの声



このたびは栄えある銀賞をいただき、ありがとうございました。お客様をはじめたくさんの方から祝福の声をいただき、妻と二人でとても嬉しく思っております。
この作品のモデルさんは赤ちゃんの頃から撮影させていただいている女の子です。
おてんばで照れ屋さん。誰が見ても素敵な女の子で、この子の魅力が受賞につながったんだと思います。モデルの魅力を捉えるセンスと、それを壊さず委ねる気持ちが大切なんだと改めて感じました。そしていつも楽しく撮影させていただけるお客様との深い関係性が作品の深さにつながるんだと思いました。
僕は妻と二人でいつかこのモデルの女の子が人生の岐路に立った時、この写真が当時の記憶を伝え何かの助けになってくれたらいいなあと思っていて、そんなことを目指していつも撮影しています。僕たちの撮った写真はお客様に大きな力を伝えることができるんだと福森さんから教えていただきました。
そのための写真づくりを福森塾で学ばせていただいていること、この場をお借りして感謝申し上げます。そしていつも刺激を与えてくれる世代を超えた塾の仲間達にも感謝致します。
みんなで集まった勉強会の時に受賞の報告を聞いたこと、僕にとってとても幸せな出来事でした。
最後にいつも琴線にふれるような子供の可愛さを教えてくれる二人の息子達、そして必ず撮影のアシスタントに入りお客様を癒してくれる妻の光世へ、ありがとうございます。
（制作ラボ：オオタラボ）

銀賞

「米寿」　富川 哲　富川スタジオ（愛知）

データ：フジカラー PRO 160NS　4×5　300㎜　F5.6 1/2　1/100　ストロボ

■選評

帽子を被ったおばあちゃんの素敵な笑顔、お洒落感も感じられ「これぞ営業写真」というような素晴らしい作品です。表現のポイントとなるのが「手」の扱いですが、ややもすると手だけが目立つものになりがちですが、この写真では小さく可愛く見せながらも、指輪がしっかり描写されていることなど、作者の細かな配慮が感じられます。また、無理のない自然なライティングで被写体を優しく包んでいます。帽子・眼鏡・椅子などの曲線を上手に活かした画面構成により、被写体の「優しさ」を強調するなど、随所に作者の気遣いが感じられる優れた作品です。

■喜びの声

「新しいアイディアと確かな技術」
言葉にすると簡単です。私にとっては非常に険しい道のりです。去年よりも今年と、無いアイディアと未熟な技術を駆使して、私は毎年がんばってコンテストに挑戦してまいります。
2013年入賞は大変うれしく感謝しております。ありがとうございます。
写真技術は毎日毎日の失敗・成功の積み重ねが大変大事なことではないでしょうか。
私は満76歳になりましたが、いまだにレベルに達しておりません。若い先生方に負けないよう、これからもがんばっていきます。
富士フイルムさんの「営業写真コンテスト」のおかげで、私達営業写真家は本当に良い勉強をさせていただいています。
今までコンテストに出品されていない方も、自分自身の勉強だと思って参加してみてはいかがでしょうか。入選する・しないは時の運。がんばりましょう。
景気が上向いたとはいえ、営業写真業界はとても厳しい現状ではないでしょうか。
仲間同志、元気を出してがんばりましょう。
最後に私の言葉「一枚の写真に物語がある」
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銀賞

「1st Birthday」　高橋 元　ファミリースタジオ ゲンヨー（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　1/160　ストロボ+自然光

■選評

赤ちゃんは、顔だけでなく手・足・体すべてが可愛いものです。それを、お洒落な椅子に絡ませながら不安定ななかで可愛らしさを表現しています。椅子と一体になって可愛い形を作っていますが、ある意味、危なさを感じさせます。しかしその危ないところにこの写真の一つの良さがあって、赤ちゃんらしさが表現されています。おそらく赤ちゃんの背後には、いつ倒れてもいいようにアシスタントが付いているはずで、みんなで優しく見守りながらの撮影だからこそ、こうした瞬間が撮れたのだと思います。「可愛いね」と思わず微笑んでしまうような作品です。

■喜びの声

マジで？銀賞受賞の報告を受けた時に発した言葉でした。
初めて富士フイルム営業写真コンテストに出したのは9年前…「とりあえず出そっかな」って軽い気持ちで出しました。結果は当たり前のように惨敗…悔しい思いは全くなかった…今、思うと当たり前です「本気」じゃなかったから…
二年目、前年出した時と違って「本気」になりかけてました…今でも公私にわたって一番親しくさせていただいてる私の心の兄貴でもある小﨑修平さんに「修平さん！コンテストの結果まだっすか？いつっすか？」って聞いてましたが…結果、惨敗…今度はホントに悔しかった！
三年目は「優秀賞」うれしくて修業させていただいた内倉写真館、内倉たけお先生に「先生！営業写真コンテスト入りました」と電話で報告したところ先生の「やったな！よかったな！」との声に私の涙腺が崩壊したことを思い出します。
私は本当に多くのステキな先輩、ステキな仲間に恵まれています。
九州 PGC のみんなとの出会い、RSTM の三人の先輩との出会い、九州情熱写真塾のみんなとの出会い、福岡県写真師会での故山口睦男先生の三年間にわたったセミナー、重岡さん、荒木さん、波左間さんとの出会い、チーム４Ｂの出会い、小さいウチの店に来てくれるお客様、そしてなによりも師匠内倉たけお先生、奥様の政子チーフ。今までの皆様との出会い１つ１つが私の血になり肉となっております。めんどくさい私ですがこれからも宜しくお願い致します。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック株式会社　九州生産グループ）

銅賞

「Let's swim!」　福田鎌一郎　㈲福田写真館（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-75㎜　F5.6 1/3　1/60　ストロボ

■選評

見るからにカラフルで、楽しさが伝わってきます。水着や帽子に合わせたビート板の組み合わせが、賑やかな配色のなかでも統一感が感じられ、バランス良く表現されていると思います。通常ならば、ゴーグルを外して笑顔を見せるのが一般的ですが、この写真では充分に楽しさが表現されています。カメラマンを信頼しきっている笑顔だといえるでしょう。バックを黒にしていることも、原色をまとめるには最適ですし、逆に白にすると水着の黒が目立ちすぎてしまい、肝心の素敵な笑顔が薄れてしまう結果になりかねません。構成力に長けた作品だといえます。

■喜びの声

しのちゃん、ユッキー、ゆらちゃん。毎年、目が合うだけで大爆笑！楽しい三姉妹。初代の祖父がご両親の結婚式を撮影させていただいて以来の大切なお客様です。私の方がリラックスさせてもらっての撮影、しかもこのコスチューム！たのしい一枚になりました。ホントにありがとう！！！
気づけば写真館というところに身を置いて20年、富士フイルム営業写真コンテストは自分の中でも家族の中でもずっと特別なものです。毎年、予備審査の通知が来るか来ないかで一年のテンションが左右されるほどの一大イベント、そんな中、50回という記念すべき時に２通の通知、しかも恐れ多くも銅賞！・・・どうしよう・・・・。身に余る光栄で恐縮しております。夢に見た帝国ホテル、感謝感激です。
写真館のすばらしさを教えていただいた内田雅之先生、いつも御指導いただいておりました北海道営業写真家協会の伊豆倉淳代表、サークル「風」の柴田昌勝代表をはじめ諸先輩の皆様、心から感謝を申し上げます。これからはこの賞に恥じないように、おごることなく一生懸命勉強していきたいと思います。最後にこのような素晴らしいコンテストを続けていただいている富士フイルムの皆様、本当にありがとうございます。また、帝国ホテルに来られるように頑張ります！
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック株式会社　宇都宮生産グループ）

銅賞

「青春時代」　梅津士郎　スタジオ ながい（山形）

データ：デジタル一眼レフ　28㎜-105㎜　F5.6　1/100　ストロボ

■選評

今時の女子高生を、飾らずにそのまま表現した写真です。こうした写真では、優等生あるいはお嬢様のような雰囲気で撮るケースが多いのですが、この作品は一般的な女子高生を上手に表現しています。立ち方が今時の女子高生そのままを感じさせます。通常なら「足を揃えて…こっち向いて」となりますが、おそらくそうした指示はせずに、あくまでも自然に切り取ったと思います。作者の純粋な目が感じられます。ライティングに関しては、グラデーションを作って、コマーシャル写真の要素を入れているようですが、雑誌のグラビアの１ページのようで、それも成功していると思います。

■喜びの声

「エッ！マサカ！ヤッター!!」自身にとって写真道の道しるべとも言えるコンテストでの嬉しい嬉しい受賞の知らせが届きました。早速お客様にお伝えしたところ、想像以上に喜んでくださり、私達も喜びと感動が倍以上に膨らみました。
モデルの里緒菜さんは、赤ちゃんの時から何度も撮影させていただいているお嬢さんで、当時から笑顔がとても愛くるしくこのたび高校の制服でいらした時は小さい頃の面影を残しつつも随分成長されていて驚きました。
御両親の愛情をたっぷり受けて、楽しい高校生活を送られている様子が手に持っているカバン、全体の雰囲気から感じとられたので、あまり注文をつけずにホリゾントに立ってもらい体を少し倒して動きを出しました。
１枚の写真に青春の思い出をいっぱいつめて…これからも「おしゃれ」で「明るい未来」を感じられる作品作りを心掛けていきたいと思います。
最後になりましたが、写真から人生までの御指導をいただいております大阪の辻文作先生、奥様の夢路さん、一緒に勉強させていただいいている仲間達、写真の基礎を築いてくださった仙台の写真・ミナカワの由吾さん。
そしていつもきれいなプリントをスピーディーに仕上げてくださるプロカラーラボの皆様。心より御礼申し上げます。
本当にありがとうございました。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

銅賞

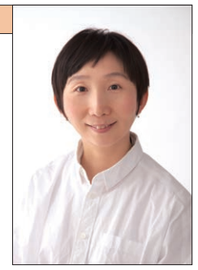
「めめこ 大好き」　齊藤綾子　綾こ写真館（山形）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F3.5　1/125　ストロボ

■選評

撮っているカメラマンも猫が好きだと感じます。猫をよく分かっていて撮っているという印象を受けます。犬に比べて猫の撮影は難しいものですが、お嬢さんの表情と合わせて最高の一瞬を撮影しています。綺麗さを意識した優しいライティング、質感描写も最適です。お嬢さんの顔が猫にかぶっていて、どちらが主役なのかな？と思わせるところがありますが、猫に気持ちを寄せることによってお嬢さんの幸せ、優しさが表現されています。猫にとって少し窮屈な抱き方をしていますが、これは飼い主のことを信頼しきっているからできるものであって、家族としての安心感・信頼感が表れています。

■喜びの声



このたびは栄えあるコンテスト50回記念の節目にふれ、銅賞をいただくことができ、ありがとうございます。目が飛び出しそうなくらい嬉しい気持ち、感謝の気持ちでいっぱいです。
３月、おくるみにくるまれためめこちゃんを抱っこされて、齊藤様ファミリーがご来館されました。
キレイな自慢の肉球の持ち主。
ご家族から愛されている様子が全体の佇まいから感じられました。
春から、夢に向かって遠方で生活を始められる娘さんとの家族写真のなかの１枚です。
日頃、抱っこしている雰囲気で撮影させていただきました。後日セレクトにおいでくださった際、「かわいく撮っていただいてありがとうございます。」お母様の言葉と表情が有難かったです。
お越しいただいたご縁、ご家族の節目に触れ、ひとときの時間と想いを共有し喜んでいただき、胸がいっぱいです。写真て良いな。心から感じました。
礎を築いてくださった椎木泰行先生。
心技体を通しご指導いただいております福森義宏先生。塾のお仲間のみなさん。上質で丁寧にプリントしてくださるオオタラボさん。皆々様、心より感謝申し上げます。日々、父をはじめ、支えてくださる方々のおかげです。
これからも、一枚の写真が大切な宝ものになりますように、心を込めて撮影していきたいと思います。
（制作ラボ：オオタラボ）

銅賞

「お～い！」　菅野太一郎　菅野写真館（神奈川）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F8.0　1/100　ストロボ

■選評

着物撮影において、守るところはしっかり守って、乱れのない形で表現された、可愛らしい七五三写真です。ライティング、バックの使い方は非常にオーソドックスで、写真館の伝統技術で三歳の可愛らしさを上手に素直に表現しています。キャッチライトも綺麗に入っていますし、写真館としての王道から外れないで撮ったことが成功していると思われます。袖から少し下着が見えているのはご愛敬です。手の表情も可愛く、おそらくこの視線の先にはお母さんがいるのだと思います。お母さんの気持ちがこの表情に表れているのだと思います。

■喜びの声

このたびは、銅賞という栄えある賞をいただきありがとうございます。
連絡をいただいた時は驚きのあまりに「じぇじぇ、じぇ、じぇ」ってビックリしました。
そして色々な事が走馬灯のように頭を駆け巡り、思わず電話越しに泣いてしまいました。私のような浅学非才の身が、どうして選ばれたのか今でも不思議でなりません。
撮影させて頂いたお嬢様はお宮参りの時からお越し頂いていて、とても元気な明るいお嬢様で、撮影の時も愛くるしい笑顔を見せてくれていたので、必死にシャッターを切ったのを今でも鮮明に覚えています。そしてこの目線の先に娘を見る優しい御両親の笑顔に心が癒され、私の大好きな写真になりました。
今は、ただただ皆様へ感謝の言葉を並べることしかなく、アートカラーラボの橋本会長、いつも親身に色々としていただいている小野寺社長様には本当に感謝の言葉しかなく、いつか少しでも恩返しができればと思って頑張ってきました。そして修行時代に何も分からない自分を鍛え上げていただいた故・今井友一先生、イマイスタジオの先輩方々、行き詰まった時に私を拾っていただいた大沢尚芳先生、写真館を一緒に支えてくれている両親、楽しい家庭を作ってくれている妻と娘、招き猫の要素を持った愛猫、写真館の基礎を教えてくれた兄、スタッフのみんな、PGC メンバー、私の周りの全ての人に感謝したいと思います。
そして最後に開催していただいております富士フイルム様に心より感謝申し上げます。
これからも「めざせ金賞！いくぞ帝国！」を合い言葉に頑張っていきたいと思います。
本当にありがとうございました！
（制作ラボ：㈱アートカラーラボ）

銅賞

「レッティーさん」　滝澤一浩　タキザワ写真館（長野）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F4.0　1/60　ストロボ

■選評

リラックスした外国人男性を、自由な雰囲気で捉えた写真で、男性ポートレートとして新しさを感じさせます。ハイアングルで捉えたことがこの写真の魅力を一層引き立てており、フローリングの斜めの線とで奥行き感を出していて、その構成力の素晴らしさが際立つ写真です。左側の床に当てた光も画面構成上、効いていますし、この光がないと、モデルさんの明るい笑顔が引き立たなくなってしまいます。こうした表情を引き出せたのは、お客様とのコミュニケーションがしっかりしていないと撮れません。程よい距離感でコミュニケーションを取って「らしさ」を表現したのだと思います。

■喜びの声

このたびは、栄えある銅賞をいただき、喜びもひとしおでございます。
今回の受賞写真の「レッティー氏」は、カナダ人で、私の地元、上田市で輸入雑貨を営むかたわら、中学校の英語の外部講師や、長野県でおこなう駅伝大会の上田佐久チームの監督として優勝に導くなど、パワフルな、いつも微笑みを絶やさないすばらしい方です。
今回の受賞も、この氏の“微笑み”に助けられた上での受賞です。本当にありがとうございます。
これからも私は、生かされていることに感謝し、難しいけれど、喜びのある営業写真に敬意を払い、お客様に“良かった”と言っていただけるように、幸せを感じていただけるように写真つくりに邁進していきたいと思います。
最後に、有賀長敏先生、駒沢の小林先生、サークル「風」の柴田昌勝代表をはじめとする諸先輩、ご同輩、志を高くもっておられるこの業界の友人、アートカラーラボの皆様、そして私の大事な家族、多くの方々に感謝いたします。ありがとうございました。
<弱いから迷いがあるから一生懸命>
（制作ラボ：㈱アートカラーラボ）

銅賞

「弓」　佐々木郊人　佐々木写真館（長野）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F6.3　1/125　ストロボ

■選評

素人では撮れない、プロならではの作品といえます。弓道に対する様式やその知識、そして着物のことも分かっていないと撮れないと思います。単純に形を追っただけの写真ではなく、被写体の表情や筋肉の張り、全体のフォルムの作り方など、すべてにおいて計算されていて、熟達した技術力を感じます。弓矢のラインと矢、そして弦は、細いながらも強さを感じますし「ギリギリ」と音まで聞こえてきそうな臨場感も感じさせ、凜としながらも力強い作品になっています。バックも、余分な要素を排除して、シンプルに被写体を強調している点も成功していると思います。

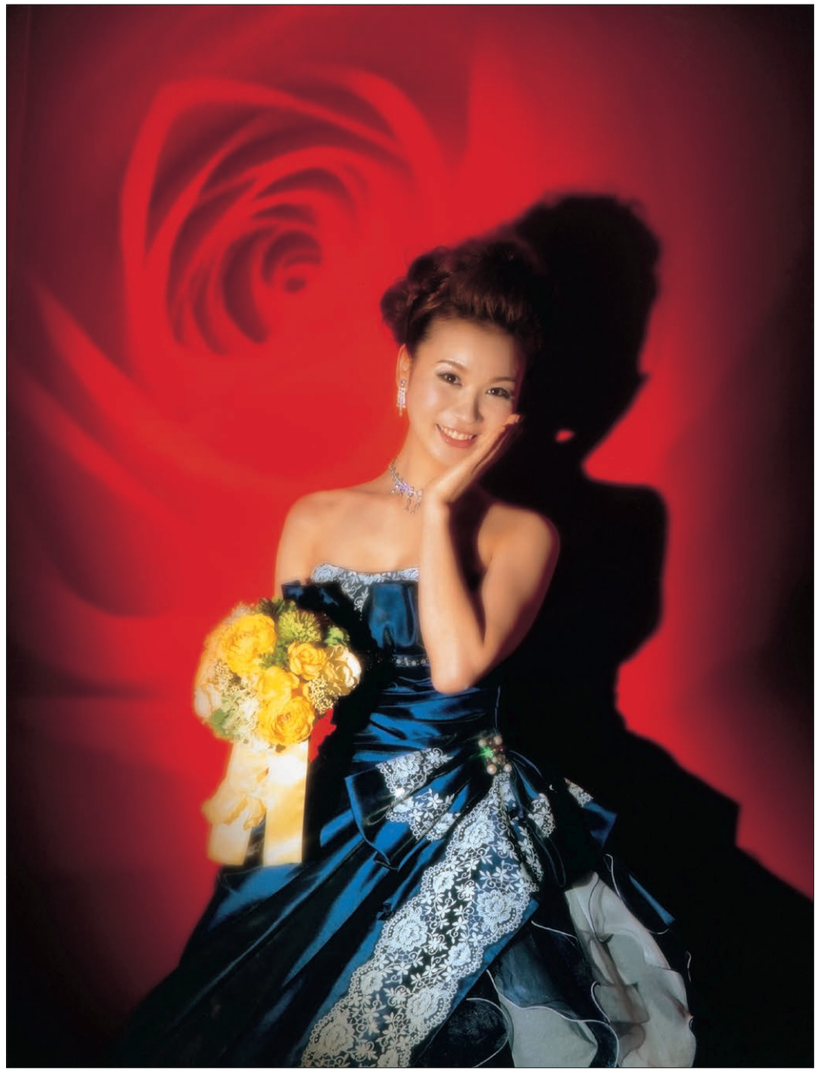
■喜びの声

このたびは栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストの銅賞をいただき誠にありがとうございます。一次審査の通過で大変満足していたところ、数日後「銅賞」の報告を聞いてまさか私がこのような賞をいただくなんて大変驚きました。受賞の写真は私の撮影技術というより、むしろモデルのお客様にいただいた賞だと思い大変恐縮しております。米寿の記念にとお越しいただいた弓道が趣味のお各様、一連の射法を行いながら撮影させていただき最後に弓を引いたポーズ、ギリギリまで引いた時の緊張感そして目の輝きと腕の筋肉そういったところが写真に残せればと撮影させていただきました。狭いスタジオでしたが弓を全部入れて撮影することができ、お客様にも喜んでいただくことができました。まだまだ想うような写真が撮れず試行錯誤ですが「お客様に喜んで頂ける写真」をお渡しできるよう技術向上に日々励んでいきたいと思います。

最後になりましたが、この受賞は日頃からお世話になっているすべての方々のお蔭だと心から感謝しております。ありがとうございました。

（制作ラボ：佐々木写真館）

銅賞



「Happy Bride」　廣田庸二　㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

データ：デジタル一眼レフ　17㎜-55㎜　F5.6　1/50　タングステン　自製全面紗

■選評

他では撮れない、オンリーワンのブライダル写真です。非常に強烈なバラの赤バックに紺のドレス、そして黄色のブーケで、原色が強いのですが、その強さを感じさせないように上手くまとめている点に、作者の高い技術力・感性を感じさせます。アッパーライトにして影を強調している点も、原色の強さをうまくまとめるのに一役かっていると思います。また、このライティングは、明らかに非現実性を強調するイメージで使われていますが、これもオンリーワンの写真ならではのものだといえます。頬に手を当てたポージングは、このライティングだからこそ生きてくると思われ、ここにも作者のセンスが感じられます。

■喜びの声

このたびは数多い応募作品の中で昨年に続き栄えある上位入賞ありがとうございました。私の写真人生にとって富士フイルム営業写真コンテストは大切な技術研鑽の場であり、私共営業写真に携わる者にとって営業写真業界の現在・未来の動向を示唆し教えてくれるプロコンテストでもあります。この作品は、今年の７月今治市でご結婚されたお客様で、前写し写真の内の一枚です。とても笑顔が素敵で目のキラキラした明るく上品な花嫁さんで、ハンサムなご新郎様とも楽しく撮影させていただきました。

時代の多様化とともに営業写真表現の変化やお客様に提供する写真商品や業態の変化が言われておりますが、何より、プロのモデルさんでない一般のお客様を撮影する私たち営業写真家は一枚の写真作りという基本を習得した上で、多くの引き出しを駆使しあらゆる時代の変化や顧客のニーズに対応するべきだと常々思っております。

また、こういった一枚の写真は多くの人の助けを借りた合作だと思っています。まず、

＊第一に、このような素敵な花嫁さんを撮影させていただきましたこと、

＊確かな技術でメークヘアー等を担当してくださった美容師の先生、

＊すばらしい感性でプリント表現をして下さる㈱プロカラーラボの荒川社長・プロ担当の藤川さん、

＊家内をはじめスタジオスタッフのみんな、そして、私の師匠である故今井イサオ先生や作画研究グループサークル「風」、PAJ の先輩方、日本写真文化協会の先生方・・・

みんなに感謝の日々であります。

近年、富士フイルム営業写真コンテストの入賞者の若返りを感じますが、私も若い方に負けないよう新しい表現を加味した写真をお客様に提供できるよう努力し、富士フイルム営業写真コンテストに挑戦し続けたいと思っております。

（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

「プレイボール」　吉田弦矢　イナバフォトスタジオ（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F7.1　1/125　ストロボ

■選評

とにかく楽しい、微笑ましい、良い写真だと思います。ボールの絶妙な位置、お子さんの傾き具合、お父さんのポーズ、そしてお母さんの手…そのすべての構成がしっかり計算されています。お子さんの赤いバットもアクセントとして効いていますし、とにかく構図の素晴らしさが引き立つ写真です。また、この写真のように写真館にアミューズメント性を持たせることで、アイデア次第で新しい展開が可能になるかもしれません。こうした写真、今後もっと増えて欲しいと思います。

■喜びの声

入賞の通知を２通いただいた時には本当に胸が高鳴りました。
そして、受賞の通知をいただくまでの約１ヶ月間帝国ホテルでの受賞を夢見る毎日を過ごさせていただきました。あこがれの帝国ホテルでの授賞式に参加することができて心から感謝しております。
今回のモデルご家族様、ご紹介をいただいたお客様方、常々写真や仕事、プライベートまでに渡りご指導してくださる諸先輩方や PGC の仲間、日々至らない僕を支えてくれる家族やスタッフに心からの感謝の気持ちでいっぱいです！！
私達は「親戚のような親密なお付き合いができる写真館」を目指してお店作りをしてきました。
それに共感していただいている、お客様方からの応援のお陰で、徐々に軌道に乗ってきました。
このような機会を与えていただいたお客様方にもっとご満足いただけるサービス、そして写真を提供していけるように。僕を育ててくれた PGC や写真業界にもっと貢献できる人間になっていけるよう精進していきたいと思います。
このたびは、皆様本当にありがとうございました。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック株式会社　九州生産グループ）

銅賞

「イエ～イ!!」　太田順二　すみれ写真館（佐賀）

データ：デジタル一眼レフ　28㎜-70㎜　F5.6　1/125　ストロボ

■選評

このご家族の温かさ、幸せ感が素直に伝わってくる微笑ましい作品です。モノトーン系の服装をシンプルな白バックの前で構成し、そして顔の寄せ方のバランスも最適で、なによりもお子さんを中心にした笑顔の素敵さが際立つ写真です。お母さんの姿勢は、一つ間違うと中途半端な姿勢になりがちですが、この写真では不安定さを感じませんし、逆に自然さを感じさせ、さらにお父さんの線と合わせて家族の一体感を表現しています。構成の綺麗さを感じさせます。シンプルに捉えたことによってこのご家族の普段の雰囲気、生活感が表現されていると思います。

■喜びの声

このたびは、栄えある銅賞をいただきありがとうございます。また今年は富士フイルム営業写真コンテスト50回記念、誠におめでとうございます。この記念の年に入賞できたこと、また念願だった家族写真で上位入賞できたこと、本当に嬉しく思います。モデルのお客様は結婚式以来、当館を気に入っていただき、夏の kids のキャンペーンや毎年の家族写真を撮らせていただいているご家族です。いつも明るく仲良しなご家族なので、ありのままをナチュラルに、家族の和を大切にしながら撮影しています。今回も少しやんちゃになったお子様を中心として、構図を考えたところ、自然に上手くまとまり、愛情たっぷりの写真に仕上がったと思います。お客様にも気に入っていただき、「今年も家族写真のアルバムに素敵な写真が残せたね」と大喜びしていただきました。こんな素敵な言葉を沢山聞くためにも、自分のためにも、日々努力し頑張っていかなくてはならないと思いました。日頃よりいろんな面でご指導いただいている福森先生をはじめ、諸先輩方、仲間達、家族のみんな、これからもよろしくお願いいたします。また一年、お客様に喜んでもらえるようないい写真をつくっていきたいと思います。すべてのお客様に感謝いたします。本当にありがとうございました。
（制作ラボ：すみれ写真館）

銅賞

「Sunset」　江頭正和　㈱堤写真館（熊本）

データ：デジタル一眼レフ　16㎜-35㎜　F5.6　1/60　ストロボ

■選評

自然が舞台で、天候等条件が厳しいなかで、これだけ雰囲気のある描写ができたことに、カメラマンの力量が感じられます。「天候に恵まれた」と言えばそれまでですが、恵まれる以前にこの場所で相当撮っていることを感じます。おそらく、季節ごとにどう変化するか分かっていると思われます。ですから偶然できた写真ではなく、商品として成り立つだけの準備をしていると思います。屋外ロケーション撮影では、とかく動きがあるものが多い中にあって、この写真では静止した二人の落ち着いた感じとドラマチックなシチュエーションが合っていますし、笑っていないながらも幸せ感が出ている点も、リアリティーを感じます。

■喜びの声

このたびは、富士フイルム営業写真コンテストで、銅賞をいただきありがとうございます。夢がかない嬉しさいっぱいです。入賞通知書に銅賞の二文字を見た瞬間、思わず万歳と叫んでしまいました。それを見た職場の皆が自分のことのように喜んでくれたのが、また、涙がでそうなほど嬉しかったです。この作品は、前写しの写真で厚い雲と絶妙のタイミングで見えた夕焼、その鮮やかな陰影を背景に若い二人の情熱と視線の先の決意をこの一枚に撮りました。この貴重な瞬間が撮影できたのも、撮影に関わってくれたスタッフの皆さんのおかげだと感謝しています。
今回の受賞は、私にとって大きな励みになりこれから、もっと上を目指していきたいという思いを強くしてくれました。
最後になりましたが、自分のことのように喜んでくれた「同志」福森塾の皆様！何よりご指導していただいている福森先生本当にありがとうございます。また、いつも最高のプリントをしてくださる富士フイルムイメージングプロテックの方々特に高原様に心よりお礼申し上げます。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック株式会社　九州生産グループ）

フロンティア賞

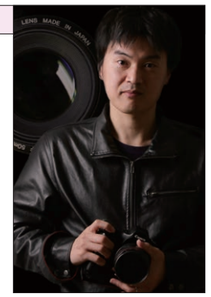
「さくら」　大上光敏　アートアイランド おおうえ（愛媛）

データ：デジタル一眼レフ　F5.6　1/800　自然光

■選評

フロンティア賞に相応しい、非常にユニークで斬新な作品です。お二人にだけピントを合わせ、画面上の桜はぼかして、日本画と油絵の良い部分をミックスしたような、独特の世界を作っています。その技量の高さには驚きます。今、テレビの世界でも、大画面のなかでぼけた画像を作りながらも、人物だけはしっかり見せているというシチュエーションが多々ありますが、それを写真で表現しており、新しい感覚が感じられます。カメラをはじめ、ハードまたはソフトが進化し、いままでできなかったような表現が可能になりました。その典型的な例といえ、技術的な進歩と作者の感性とで新しい世界を創り上げているといえるでしょう。

■喜びの声



このたびは「2013富士フイルム営業写真コンテスト　フロンティア賞」をいただき、誠にありがとうございます。この賞をいただくにあたり、最初に感じたことは、月並みな言葉になりますが、「自分一人の力でいただけたものではないな」というものでした。最初に写真の道を切り開いてくれた祖父母。仕事とはどういうものかということを教えてくれた両親。最も頼りになる仲間であり、目標でもある兄。一人では書類一つまともに書けない私をいつもフォローしてくれるスタッフ。新郎新婦のことを一番に考え、素晴らしい結婚式になるよう全力でお客様と向き合う式場のスタッフの皆様。一生の思い出になるであろう婚礼写真の撮影に私を選んでくださった新郎新婦様。今まで撮影させていただいた全てのお客様。私の無理なお願いにもきちんと対応していただけるラボや取引先、 メーカーの皆様。そして、気難しいであろう私のことを仕事でも家庭でも一番近くで支えてくれている妻。ここで書き尽くせない全ての人に感謝したいと思います。「フロンティア賞」ということで、今後を期待されていると勝手に解釈させていただき、ここを新たなスタート地点としてまた来年、再来年といい作品を残せるよう、これからの写真人生と向き合っていきたいと思います。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

優秀写真アルバム賞
婚礼写真アルバムの部

「PRECIOUS MEMORIES」　河野 誠　河野フォトスタジオ（香川）

■選評

ブライダルアルバムとしての全体の流れ、なかのページの写真の構成・レイアウト、すべてにおいて上手くまとめています。普段、この場所で何度も撮っているように思われ、手慣れているように感じます。ある程度、パターン化しスピーディーに撮っているように思われますが、かといって雑ではなく、細かなところまでの配慮が感じられ、丁寧に撮っている点に好感が持てます。はじめのページに、庭園での全景写真が掲載されていますが、このカットが重要で、何処で撮影したかが大切なポイントになり、またアルバムの流れという意味でも重要な役割を果たしています。とにかく、細かな気遣いが感じられる優れたアルバムです。

■喜びの声

このたびは婚礼写真アルバムの部「優秀写真アルバム賞」に選んでいただき、ありがとうございます。
当写真館では新郎新婦様だけではなく、たくさんの人達の想いが詰まった婚礼アルバムを作れるように、日々励んでいます。特に打ち合わせ、撮影、アルバムデザインにはこだわりを持ってお客様に喜んでいただけるよう努めています。打ち合わせでは新郎新婦様の想いをできるだけ汲み取り、その想いをプラスアルファすべく撮影に臨み、アルバムのデザインではお二人のお好み仕様のアルバムに作り上げていきます。スタッフ全員で新郎新婦様にステキな時間を作りあげたいと思い、写真撮影から、アルバムのデザインまで手がけています。アルバムデザインは一組一組すべてオリジナルで作成させていただいています！
今回いただいた賞は、カメラマンだけではなく、美容師さんや結婚式場のご協力があってこそいただけた、チームの賞だと感じております。そして、なにより今回のアルバムを作っていただいたラボネットワーク様、本当にありがとうございました。
また、自分にいつも向上する気持ちを与えてくださるPGC会員の皆様、いつも一緒にがんばっているスタッフや私を支えてくれる父と母、そして妻に心から感謝いたします。
このたびは、本当にありがとうございました。
（制作ラボ：㈱ラボネットワーク）

優秀写真アルバム賞
一般写真アルバムの部

「私の通学路。」　岡村 匡　㈲岡村写真工房セピア（北海道）

■選評

「通学路」という斬新な切り口で制作された新しいアルバムです。さまざまなお子様に対応できる世界ということで、あえて「通学路」を選択し、自分の生活空間や時代性を限定することによって商品化しやすくなりますし、見た方も分かりやすいのではないかと思います。なかの写真は、レンズもさまざまに使い分けて撮影されていますし、さまざまなアングルから、そして順光、逆光、アップもありでバリエーション豊かに構成されています。いくつか、ポイントになる写真を大きく扱うなど、メリハリをつけながら、起承転結を考えながら撮影・ページ構成がされています。お嬢さんの表情も良く、これはカメラマンと信頼関係が確立している証だと思います。

■喜びの声

このたびは優秀写真アルバム賞をいただきありがとうございます。いつも切磋琢磨できる全国の仲間たちに心から感謝申し上げます。
そして私を支えてくれるスタッフ、お客様、そして妻の陽子にはこういうカタチで少しでもお返しができて良かったと思います。
お世話になっているPGC、北営協、福森塾、写館協の皆様にはたくさんのご指導をいただいています。このような栄誉ある賞をいただいいたのは自分を取り巻く環境全てに感謝しています！
この写真集「通学路。」は当店にとってとくに大切にしている商品の一つです。いつか大人になっときに歩いた道の中でたくさんの思い出がよみがえるように「時代」をたっぷりと写し込んでカタチにしています。いつも大切にしている写真集がこのように評価されたことに心から感謝と喜びを感じています。これからも写真の力を信じて感動をカタチにできる「写真館」を誇り高く努めていきたいと思います。
とにかく「いつもの風景」を自然に表現したいと思いながら撮影しました。
いつも通りかかる人、たまたま通りすがった車、いつも立ち止まるパン屋さんの甘い匂い、いつも一緒に歩く友達、などなど些細なこともしっかりと写真におさめる気持ちで撮影しました。
年間30冊限定の写真集「通学路。」ですが、札幌市内だけではなく2時間、3時間かけて撮影に行きます。ガソリン代、高速代など交通費はいただくことはありません。自分も楽しみながらこの写真集に取り組んでいます。でも一日仕事なので予約の調整が難しいこともありました。でもこれからも続けていきます！写真集「通学路。」
これからもどんどん企画していろいろなことにチャレンジしていきたいと思います。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック株式会社　宇都宮生産グループ）

優秀賞

「夫婦から家族へ」岡村 匡　㈲岡村写真工房セピア（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　28㎜-70㎜　F2.8　1/60　自然光

「末っ子」まるやま耕司　㈲丸山写真館（長野）

データ：デジタル一眼レフ　F7.1　1/125　ストロボ

「花束」藤田 淳　フジタスタジオ（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F2.8　1/200　自然光

「よーい、どんっ!」高寺洋雄　コマスタジオ（千葉）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F5.6　1/100　ストロボ

優秀賞

「かわいい三つ子ちゃん」大西真人　㈲スタジオ・クニ（愛知）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F8.0
1/125　ストロボ

「成人の日に」湯本和子　ユモトカラースタジオ（徳島）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F4.0　1/60　ストロボ

「真子ちゃん」三木恭典　三木写真舘（徳島）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F1.8　1/200　自然光

「自由人」菊池剛史　あかま写真館（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　35㎜　F5.0　1/100

「おじいちゃんも一緒にスマイル」多々良晋平
㈲写真館タダシ（福岡）

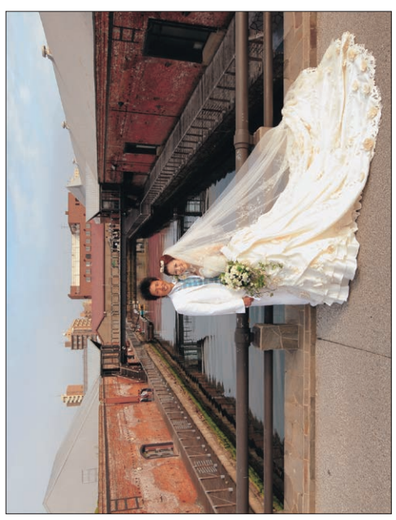
データ：デジタル一眼レフ　28㎜-70㎜　F8.0
1/160　ストロボ

「長男！頼りにしてますよ！」小﨑修平　おざき写真館（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F13
1/125　ストロボ

「バッピーな日」

吉尾正良　キダチ写真館（北海道）



「Wind」

塚田修　佐々木写真館（長野）

「誓いを分かち合う」

須藤裕幸　㈲光影スタジオ（新潟）

「幸せ」

石川孝志　高島屋写真館（東京）

「しあわせ」

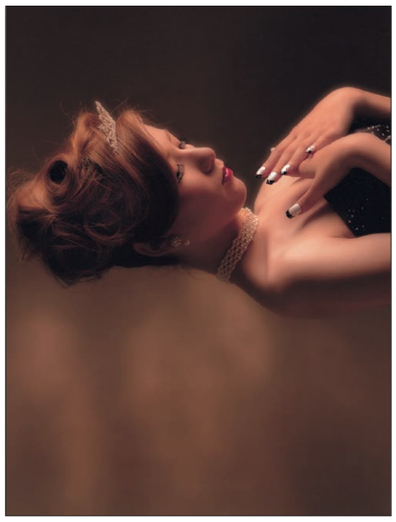
星桂　フォトスタジオフォルム（山形）

「あなたへ」

根岸真衣子　㈲ネギシ写真館（富山）

「muse」

杉山真彦　㈱フォトスタジオコイズミ（静岡）



「お友達」

三木恭典　三木写真館（徳島）

「ジュールイブルティ」

石澤裕　帝国ホテル写真室 ㈱佐藤写真（東京）

「おじいちゃんっ!!」

内田和宏　広島プロデューススタジオ一口（広島）

「幸せの時」

木本智之　㈲キモト写真場（徳島）

「優雅に」

緒方弟久児　㈱美光写苑 ステーションホテル小倉写真室（福岡）

「アイ・コンタクト」

谷崎栄一　㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

「ずっとお願いします。」

西尾絵里　㈲スタジオ セピア（香川）

「雅」

福島隆一　㈱松田写真館（福岡）

「春」

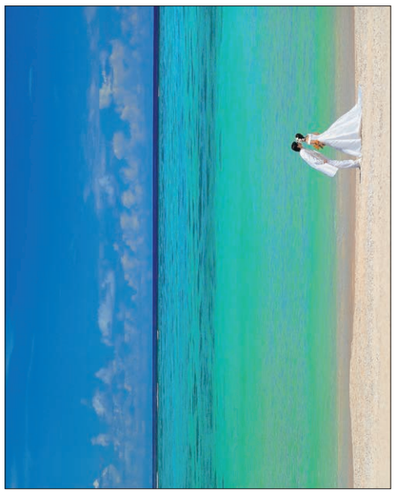
山口潤一　㈱興写真館（熊本）

「仲間の祝い事」

中村賢治　中村写真工房（鹿児島）

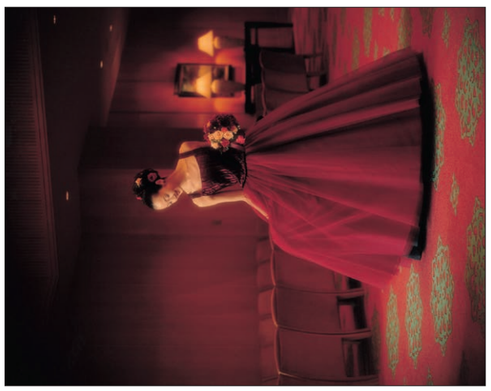
「二人だけの約束」

新井　優　新井写真館（沖縄）



「ウエディングの母と」

鶴田一雄　㈱松田写真館（福岡）



「Bride」

甲斐浩充　ぎおん写真スタジオ（宮崎）

「けいくん入園」
中岡真一　中岡写真館（北海道）

「双子ちゃんの入学式」
秋山昌弘　秋山スタジオ（北海道）

「ちーちゃんの入園記念」
志賀大　フォトスタジオデイズ（福島）

「大好きな仲間と卒団」
山口大郎　㈲山口写真（埼玉）

「かわいいきょうだい」
ヤナセ セイジロー　ヤナセ写真館（埼玉）

「ぼくたちの入学」
伊庭雅敏　㈲セイタ写真館（神奈川）

「らしさ♡」
松村賢浩　まつむらフォトスタジオ（神奈川）

「フレッシュ」
増井伸一　スタジオ・ポートイマジン（新潟）

「明日へ」
吉川昌幸　写真の光陽（福井）

「瞳のひざし」
菅野太一郎　菅野写真館（神奈川）

テーマ賞 第１部〈行事〉入園卒園・入学卒業写真の部

「還ちゃんの入学」
荒木敬介　はこざき写真館（福岡）

「１年生になったよ。」
石立素久　イシダテ写真場（徳島）

「由梨佳さんの入学記念」
小山昌昭　㈲小山写真館（香川）

「川之江高校吹奏楽部」
篠原裕和　㈲光洋社（愛媛）

「卒業したよ！」
野田エイタロウ　ＡＢＣスタジオ（山口）

「なかよし」
蓑田憲明　㈲フジ写真館（熊本）

「いっしょの制服だね！」
吉岡功道　吉岡写真館（佐賀）

「うれしい卒業！」
仲嶺真弥　㈲日光写真館（沖縄）

「みんなで元気でね」
渡辺敬太
㈲ワタナベフォトスタジオ（宮崎）

「みんなで卒園記念」
原田太一　原田写真館（福岡）

テーマ賞

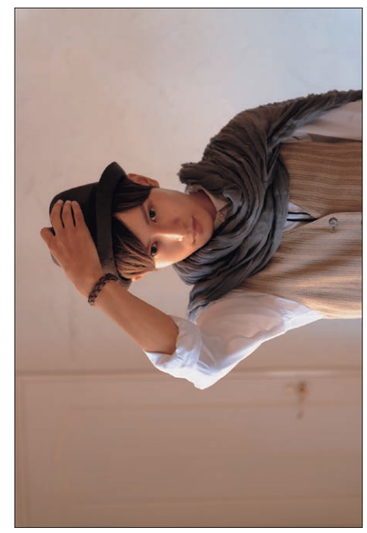
第1部〈行事〉成人式、七五三写真の部

「大漁れ日の母と」

合田 慎　美正写真館（福島）

「シャイ」

武藤芳行　㈲秋父写真館（埼玉）



「喜びふたつ。」

平 ゆみ　フォトスタジオフォルム（山形）

「光に向かってワッショイ!!」

有吉素紀　㈱加藤写真（埼玉）

「双子」

松村和男　岩佐写真館（栃木）

「まちの七五三」

笠原政宣
ウェスティンホテル東京 ㈱五十嵐写真店（東京）

「華」

長谷川 隆　㈱長谷川写真館（新潟）

「庭園にて」

鳥田博之
グランドプリンスホテル高輪スタジオ（東京）

「ちびかぶき」

堀 由貴子　ホリスタジオ（東京）

「パンチ三世風」

柴田昌勝　柴田スタジオ（東京）

テーマ賞 第１部〈行事〉成人式、七五三写真の部

「七海ちゃんの七五三」
大西真人　㈲スタジオ・クニ（愛知）

「3兄弟とパパ」
西岡 亮　MERRY LaRaLa... Photo Studio（三重）

「お父さんありがとう」
川地清広　写真の川地（三重）

「凛として」
村中 聡　伊勢丹写真室 大阪店（大阪）

「成人の記念に親友達と」
犬塚雅晴　いぬづか写真室（兵庫）

「ゆづきちゃん、3歳」
吉田舟邦　㈲吉田写真館（熊本）

「カッコいいでしょ」
平岡義弘　㈲平岡写真館（広島）

「粋」
湯本和子　ユモトカラースタジオ（徳島）

「こうちゃんの七五三」
橘薗正恵　めぐみ写真館（鹿児島）

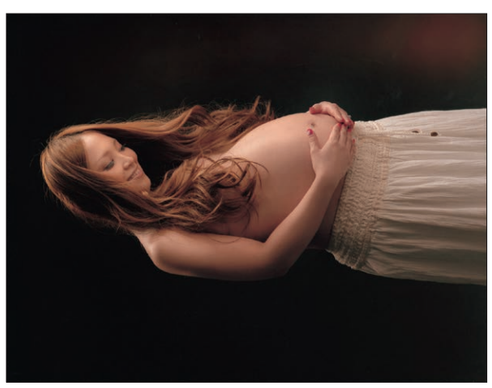
「友と祝う成人式」
児島大志郎　㈲児島写真館（鹿児島）

「青年の想い」

朝風春子　あさかぜ写真館（北海道）

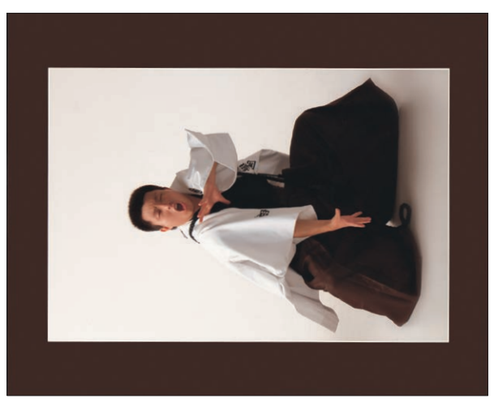
「Maternity」

佐藤 香　フォトスタジオたとう（北海道）



「関西大学応援団」

星川信博　㈲フォトキャンバス（山形）



「バンド仲間」

藤田 淳　フジタスタジオ（北海道）

「ジャパニーズ親父」

田内光裕　㈲清水写真館（静岡）

「青野原のばあちゃん」

富田 豊　㈲トミタスタジオ（東京）

「帽子の紳士」

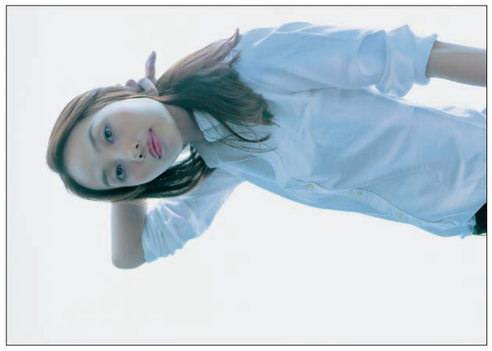
林 隆昌　㈲スタジオイマージュ（岐阜）

「感謝にて」

松山喜彦　松山写真㈱（静岡）

「White Shirts」

オヌキヒサシ　Bliss（東京）



「祝賀にて」

富川 哲　富川スタジオ（愛知）

「快晴の日」
四方一雄　写真のたちばな（京都）

「職人」
湯本一生　ユモトカラースタジオ（徳島）

「早くおいで」
吉田弦矢　イナバフォトスタジオ（福岡）

「眼差し」
重岡隼人　もとまつ写真場（福岡）

「ウエディングフォト」
明石一矢　フォトスタジオビタミン（福岡）

「輝いてるね」
園田淳子　㈱美光写苑　KKRホテル熊本写真室（熊本）

「写友会卒業　吉田さん」
池上恵子　㈱山田写真館（熊本）

「黒帯目指せ！寛太くん！」
内倉るみこ　㈲内倉写真館（宮崎）

「ウエディングフォト　似合うでしょ！」
坂本春奈　フォトスタジオビタミン（福岡）

「いつまでもお若く」
津留洋太郎　フォトスタジオJun（福岡）

テーマ賞　第２部〈一般〉子供ポートレート写真の部

「ちひろちゃん一歳の笑顔」
福田ヒロジ　ふくだ写真舘（秋田）

「６歳の記念日に」
加藤建三　フォトスタジオ一条舘（北海道）

「まねっこ」
中村美緒　㈲ナカムラ写真館（岩手）

「やさしい　まなざし」
森本順三　㈲もりもと写真館（北海道）

「楽しいね！」
中野修平　中野写真館（神奈川）

「１才になったよ！」
根本昌幸　㈱小貫写真館（茨城）

「風を感じて　RUN」
吉井信義　吉井写真館（群馬）

「歩けた登れた」
臼田恵一　ウスダ フォトスタジオ（東京）

「立った」
齋藤明　㈱スタジオ・サイトー（山形）

「全力」
内藤大樹　スタジオ パセラ（神奈川）

テーマ賞 第2部〈一般〉子供ポートレート写真の部

「ボク幼稚園にいくよ」
向山みさき　㈲平沢写真館（長野）

「お祝いのお着物と」
大西邦夫　㈲スタジオ・クニ（愛知）

「ぼく、ルイくんだよ。」
川地美貴　写真の川地（三重）

「テルヤちゃん1才誕生日」
山田一彦　㈲山田写真館（長野）

「夏の思い出 いとこ同志」
長谷川久代　フォトスタジオシミズ（大阪）

「メイとタイチ」
福家大介　福家スタジオ（香川）

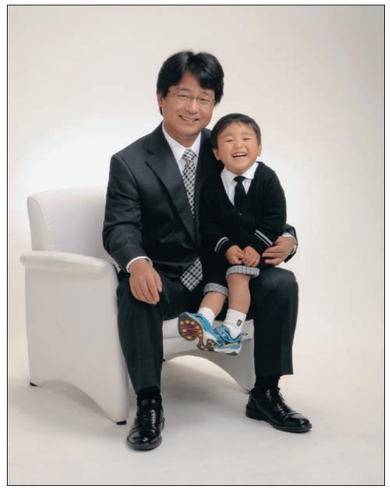
「博多の山男」
高橋 元　ファミリースタジオ ゲンヨー（福岡）

「面浮立デビュー」
太田順二　すみれ写真館（佐賀）

「ななちゃん」
矢上敬一　矢上写真館 都城店（宮崎）

「ばぁ！」
塩屋大輔　写真のシオヤ（鹿児島）

テーマ賞 第２部〈一般〉家族写真の部



「大好きなパパ」
幕田浩和　㈲まくたスタジオ（宮城）

「サワちゃんファミリー」
富田　勲　㈲トミタスタジオ（東京）

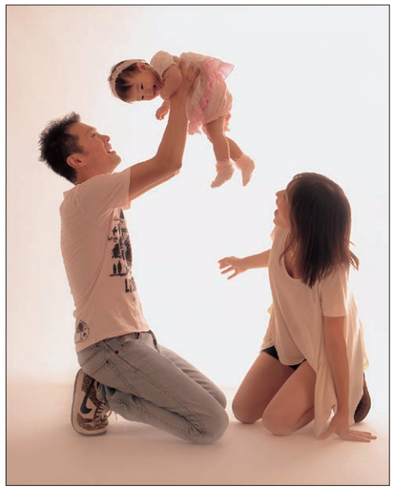
「こんにちは　Baby」
大井　大　フォトグラフィック大井（神奈川）

「愛情表現」
小林徹也　㈲小林写真館（東京）

「結婚記念日に」
伊藤譲　㈱佐藤写真（東京）

「るかくんの誕生日に」
福田鎌一郎　㈲福田写真館（北海道）

「元気いっぱい！」
阿部貴彦　㈱阿部写真館（宮城）



「たかいたかーい!!」
岡村　匡　㈲岡村写真工房セピア（北海道）

「LoVe」
加藤公平　フォトスタジオ一条舘（北海道）

「仲よし姉妹」
千葉浩道　㈲千葉スタジオ（北海道）

テーマ賞 第２部〈一般〉家族写真の部

「二人の幾年・・・・」
清田智勝　㈲セイタ写真館（神奈川）

「祝・金婚記念」
滝澤一浩　タキザワ写真館（長野）

「４人家族になったぞ!!」
根岸優子　㈲ネギシスタジオ（富山）

「仲良し四姉妹・・・合わせて３２１歳だ」
宮澤泰也　㈲宮沢写真館（長野）

「新装開店　お花屋さん」
笠松丈夫　元禄スタジオ（福井）

「家族」
佐々木宏和　佐々木写真館（愛知）

「西野ファミリーで～す。」
登里直樹　ちどり写真館（兵庫）

「大いなる母に感謝！」
小﨑修平　おざき写真館（福岡）

「私達の家族」
安部宣秀　安部写真館（福岡）

「幸福家族」
中野博隆　中野スタジオ（佐賀）

2013 富士フイルム営業写真コンテスト
金賞作家を訪ねて……東京都 Bliss オヌキ ヒサシさん

お客様の外面の輝きと内面の美しさを表現したい……常に挑戦し続け、新しい写真館スタイルを構築

「嬉しいの一言に尽きます。富士フイルム営業写真コンテストの金賞というのは、将来の夢リストに書いてきたものなので、一つの目標が達成できたという思いです。感無量です」開口一番、金賞受賞の喜びをこう語るのが、東京月島のPhoto Bliss・オヌキヒサシさんです。

応募総数11,190 点の頂点に立ったわけですが、今回、この「金賞作家を訪ねて」の取材を通して、オヌキさんを一言で表現すると、とにかく「人物を表現するための写真に対する熱い想い」がひしひしと感じられました。長年抱き続けたその「想い」が、今回の金賞という形に結実したといえます。その足跡を追ってみたいと思います。

オヌキさんのこれまでの写真の歩みは「挑戦」の連続ともいえます。茨城県水戸市の小貫写真館の４代目であるオヌキさんは、幼少の頃から、いわゆる「跡継ぎ」として育ち、中学・高校と写真部に入って、さらに大学も日本大学で写真漬け。しかし、ご本人曰く「写真は好きでなかった」。

ところが、大学卒業後、コマーシャルフォトスタジオに入社し、そこで一緒に勉強をした友人の影響で、一から写真について勉強したいと思ったそうです。

オヌキヒサシさんと奥様のマキさん、ご子息のタイムくん

そして第１の挑戦。再度、写真の勉強をするために渡米、ブルックス写真大学に入学し、がむしゃらに勉強。首席で卒業ののち、帰国。ところがそこで壁に当たってしまいます。「欧米人と日本人の顔の違い等があって、なかなか自分の思うような写真が撮れず、悩んでしまいました。そんなとき、PGC との出会いがあって勉強する機会が増えて、徐々に自分なりの写真が撮れるようになっていきました」と語っています。

第２の挑戦。技術的にどんどんレベルアップしていったなかで、さらに上の表現を目指して、2000 年に水戸市内に新店舗「パセオヌエボ」をオープンしました。スペイン調のサンタバーバラ風の建物は、館内何処でも撮影できるオールロケーションスタジオで、バリエーションに富んだ撮影が可能になり、表現の幅を拡げていったのです。

挑戦はそれに留まらず、第３の挑戦は東京への進出です。2003 年にブライダルスナップで東京へ。2006 年頃からビジネスポートレートを開始し、それが進化していって「ブランディングフォト」という独自の新しいカテゴリーを構築するに至りました。

「大人と家族」のスタジオに…新しい写真館スタイル

スタジオはマンションの１室から、2010 年に現在のスタジオ（月島）に移転し「大人と家族のスタジオ」というコンセプトで走り始めました。そこに、子供というキーワードはありません。「写真館のビジネスは子供のウエイトが高いのではないでしょうか？当スタジオはお子さんも撮りますが、基本的には『大人にも輝いていただきたい。自分の魅力に気付いてセルフイメージをアップしたり、また、家族写真を撮ることによって自分たちの幸せを確認してほしい』など、大人をメインにしたスタイルにしました」と熱く語っています。

ブランディングフォトの４つのこだわり

そしてもう一つ、独自の商品として、前述した「ブランディングフォト」を打ち出したことも、挑戦の一つであり、またその発想力にも驚かされます。

このブランディングフォトとは、いったい何なのでしょうか？　オヌキさんは次のように語ります。「いわゆるビジネスポートレートの一つですが、その名称だとプロフィール写真のイメージで捉えられたりするので、これからブランドを作っていく方を主な対象として『ブランディングフォト』と命名しました。ポイントは、人物の外面の輝きと内面の美しさを表現することで、写真を通してその人らしさを表現することにあります」。

らしさの表現といっても、それは簡単ではありませんが、オヌキさんは、それをブランディングフォトの４つのこだわりで「らしさ」「個性」を表現しています。

こだわりその１は、イメージカウンセリング。ここが最大のポイントで、お客様が来店し、そこから約１時間かけてカウンセリングを行います。最初は世間話から入っていって、徐々に現在の姿を聞きながら、将来のビジョン、そしてどう表現して欲しいかを聞いたり、とにかくお客様と会話します。「お客様が来店して、ハイ、撮りますよ！という形ではなく、じっくり話すことで、お客様にもフォトグラファーのことを知ってもらい、また、こちら側も話を聞いてイメージを完成させていきます」というように、時間をかけたコミュニケーションでお客様の内面を引き出し、それをプロの手によって描写していくという、コラボレーションでできあがっていきます。これも写真館の新しい「かたち」だといえます。

こだわりその２は、フェイシャルカウンセリングで、最初に何もしない状態で正面、左右を撮って、顔は右と左でそれだけ違うこと、どちらの向きが優しいかなどを説明していきます。イメージカウンセリングでの表現したいイメージに沿って顔の向きと光を判断していきます。

そしてこだわりその３はライティング。「お客様のパーソナリティーを表現するのがライティングであって、柔らかい光、硬い光等、カウンセリングで得た情報をもとに光を作っていきます。柔らかく包み込む光と、ハイライトからシャドーまで綺麗なグラデーションで立体感を表現するグラデーションライティングを基本としています」と話しています。

最後のこだわりは、レタッチング。修整してお洒落にしてお客様にお渡しします。

写真館の地位向上と認知度アップのために

以上がブランディングフォトですが、お客様に対してとことん向き合ってその人を表現するという、これこそまさにプロの仕事といえます。このことを実践してきたことが、今回の金賞に結びついたのだといえます。

以前、富士フイルム営業写真コンテスト用に作品作りをしていたことがあったそうですが、その時、奥様のマキさんから「賞が目的ではないのに、そこに照準を合わせた撮り方というのには違和感を感じます。もっと自分なりの写真を撮って欲しい」と言われ、オヌキさんは「その言葉を聞いて凄く楽になり、それ以降、賞を意識しない、素直に自分らしい写真を撮り続けています。その言葉から３年前の銅賞の作品に結びつきました」と話すように、今回の金賞の裏には奥様のマキさんの支えもありました。

金賞受賞作品は、非常に個性的な写真ですが、これもオヌキさんならではの作品です。これまでの写真館スタイルにこだわらない「個」を追求する姿勢が強く表れています。

こうしたオヌキさんの写真に対する想いは、多くの人に支持されています。３年前から、宣伝の意味も含めてフェースブックで毎日、写真に関する記事を書いているそうですが、そこには相当数の「いいね」が寄せられています。ちなみにこのフェースブックが同スタジオのマーケティングの基礎になっています。（チラシ等の宣伝は一切行っていません）

さて、今後について伺ってみると「近々、本を出版したいと考えています。第一弾は“幸せになる家族写真”です。単純に家族写真はいいですよ！というものではなく、各写真館に置いていただきちょっとした時に手にとって参考になる内容を考えています。自分自身レベルアップして作家養成講座も出したいと思っています。こうした活動をすることで、写真館の地位向上と認知度アップに結びつけばと思っています」と語るように、オヌキさんの挑戦はまだまだ続いていきます。

富士フイルム営業写真コンテスト 50回の軌跡

the 50th anniversary 50回記念

2013富士フイルム営業写真コンテストは50回目の記念すべきコンテストになりました。50回を機に軌跡をたどり、これまでの経緯と歴代の金賞受賞者の方々をご紹介します。

富士フイルムでは、広く写真のコンテストとして「富士フォトコンテスト」を1950年（昭和25年）にスタートしましたが、第11回を迎えた1960年（昭和35年）に内容を刷新し、富士営業写真コンテストを始め、富士プロフェッショナル賞・富士新聞写真賞・富士アマチュアフォトコンテストと四つに分け、富士フォトコンテストシリーズとして実施していくことになりました。これが第１回営業写真コンテストのスタートです。

第１回の営業写真コンテストの応募テーマは表１のとおりです。営業写真の中に、商業・建築の撮影についても案内されているのはその時代背景からこの種類の写真も営業写真家にも託されていたからです。営業写真の部、肖像写真の部ともに金賞賞金は10万円でした。

表１（1960応募テーマ）

営業写真の部
女性、男性、子供、アップから全身まで婚礼、七五三、正月、見合いなどの行事その他、商業・建築など営業用に撮影されたもの。（スタジオ、屋外出張を問わず、傑作をおよせください。）

肖像写真の部
営業写真以外の人物写真で、自由な作品意欲をもって作られた新鮮な感覚の写真を望みます。

同年５月末で締め切られ営業写真の部に562人から1,756点、肖像写真の部には533人から1,351点の応募をいただき、同年７月に入賞作品が発表されました。営業写真の金賞は「姉妹」児島寛二さん（兵庫）、肖像写真の金賞は「ハイティーン」尾内七郎さん（兵庫）でした。

営業写真入賞作品を含め、富士フォトコンテストシリーズ1960の入賞展が９月の名古屋を皮切りに、大阪、東京、福岡、札幌で行われました。

翌1961年（昭和36年）には前年のプロの部門としての富士プロフェッショナル賞と営業写真コンテストの２本立てから大きく内容を見直し、広く営業写真家の方々および一般プロ作家の方々に傑作をお寄せいただくため、テーマは表２のとおり案内されました。

表２（1961応募テーマ）

営業写真の部
営業用に撮影された見合い、婚礼、正月、七五三等のポートレート、または商業、建築写真などを対象とします。

自由写真の部
人物、ヌード、風景、造型、報道、商業、その他の単写真または組写真を対象とした、カラー、白黒いずれも未発表の作品に限ります。

営業写真の金賞は「Ａ氏夫妻」橋本清一郎さん（東京）、自由写真の金賞は「プレイ」河合肇さん（東京）でした。

第３回となる1962年（昭和37年）には弊社からフジカラーN64フィルムおよび高級人物用印画紙“鳳凰”の発売もあり、コンテストの内容が改めて見直され、表３のとおりカラー写真の部と黒白写真の部の２部門の設定となりました。

表３（1962応募テーマ）

カラー写真の部
黒白写真の部
両部門とも営業用に撮影された子供、家族、グループ、見合い、婚礼、正月、七五三、などのポートレートまたは商業、建築、学校写真などを対象とします。

応募数はカラー 98名、182点、黒白436名、1,092点でした。

1962年は金賞から鳳凰賞に読み替えられカラー写真の鳳凰賞は「ポートレート」遊佐雅信さん（岡山）、黒白写真の鳳凰賞は「ポートレート」田村豊さん（愛媛）が受賞されました。

以降、第４回1963年（昭和38年）から第12回1971年（昭和46年）までは、カラー写真の部と黒白写真の部として、それぞれに金賞が授与されました。

第８回1967年（昭和42年）から全国を９ブロック（北海道、東北、関東、北陸甲信越、東海、近畿、四国、中国、九州）に分け、その地域ごとに入賞者を決め、その中から全国賞を選ぶ方法になりました。この実施要領で第12回1971年（昭和46年）までコンテストは継続されましたが応募者の固定化などもあり４年間は休止となりました。当時の営業写真関連のニュースとしては1971年（昭和46年）に関東ＰＧＣが発足し、その後全国に広がりました。

1976年（昭和51年）、全国的に営業写真界はカラー化が伸展しカラーフィルムやカラーペーパーの品質向上、若手の営業写真家の台頭なども見られるようになり、業界に新しい活力を促すチャンスとして、フジカラーＦ－Ⅱプロフェッショナルの発売を記念して、第13回営業写真コンテストが再開されました。応募テーマは表４のとおりで、これまでのカラー写真の部、黒白写真の部からカラープリントによる５つのテーマ部門となり、金賞賞金が30万円になりました。

表４（1976応募テーマ）

男性ポートレート
女性ポートレート
子供ポートレート
グループポートレート
商業写真（建築、商品、静物など）
各部門とも日常の営業活動の中で撮影されたカラープリントによる作品

応募人数も3,559人、応募点数10,807と一気に多くの方々から応募をいただきました。

金賞は「欲びの日」幸崎真一さん（東京）でした。

同年世界初の感度400のフジカラーＦ－Ⅱ400が発売されました。

1977年（昭和52年）からは応募テーマ（表４）から商業写真がなくなりました。また世界初の感度400のフジカラーＦ－Ⅱ400での撮影領域の拡大の観点からＦ－Ⅱ400賞が1977年から３年間設けられました。

1980年（昭和55年）第17回から営業写真業務が幅広い分野に展開されており、表５のように行事写真、一般写真にそれぞれテーマ設定がされ、賞も金賞、銀賞、銅賞、優秀賞、テーマ賞となりました。

表５（1980応募テーマ）

行事写真
婚礼写真の部
学校写真の部
成人式・七五三写真の部

一般写真
男性ポートレートの部
女性ポートレートの部
子供ポートレートの部
グループポートレートの部

金賞は「私は18才」竹原万奈夫さん（岡山）でした。

1984年（昭和59年）第21回は富士フイルム創立50周年記念として、第８回～ 12回に行なわれていたブロック賞が単年度で復活され、入賞数が501に拡大されました。同年にフジカラー 160プロフェッショナルＳ／Ｌが発売されました。

1994年（平成６年）第31回はフジカラー160ＮＳ／ＮＬ発売記念として実施され、金賞賞金が50万円になりました。

2001年（平成13年）第38回から金賞賞金が100万円になり「金賞を取って100万円ゲットしたら･･･」との声が聞こえるようになりました。

2003年（平成15年）第40回で優秀新人賞、優秀アルバム賞が設定されました。新人賞は一旦休止されましたが、その後フロンティア賞として現在に至っています。アルバム賞は2008年は休止となりましたが、その後もアルバム化が伸展したこともあり特にユーザーニーズに合った提案型アルバムが普及しており現在もオリジナリティーのある作品が寄せられ継続しています。

長年フィルム撮影の作品が金賞を取っていましたが、2009年（平成21年）第46回の「フレンズ」武藤芳行さん（埼玉）がデジタルカメラでの最初の金賞受賞となりました。その後、デジタルカメラで撮影し金賞を受賞されたのは50回記念のオヌキさんで２人目となります。

金賞賞金は2010年（平成22年）第47回から諸事情により70万円に改定させていただきました。

応募テーマは1980年以降、時代に応じ少しずつ改訂が行われ2013年第50回記念コンテストでは表６の応募テーマ設定となっています。

表６（2013応募テーマ）

行事写真
婚礼写真の部
入園卒園・入学卒業写真の部
成人式、七五三写真の部

一般写真
ポートレートの部
子供ポートレートの部
家族写真の部

写真アルバム
婚礼写真アルバムの部
一般写真アルバムの部

2013年で富士フイルム営業写真コンテストは50回を迎えましたが、軌跡をたどりますと、「写真館様に育てていただいた。」という事につきます。改めて御礼申し上げます。

今後とも富士フイルム営業写真コンテストに応募をいただき、写真として残す営業写真の文化を継承していきたく、よろしくお願い申し上げます。

富士フイルム営業写真コンテスト金賞受賞者一覧

回	年	部門	地区	氏名	タイトル
1	1960	営業写真の部	兵庫	児島 寛二	姉妹
		肖像写真の部	兵庫	尾内 七郎	ハイティーン
2	1961	営業写真の部	東京	橋本 清一郎	Ａ氏夫妻
		自由写真の部	東京	河合 肇	プレイ
3	1962	カラー写真の部	岡山	遊佐 雅信	ポートレート
		黒白写真の部	愛媛	田村 豊	ポートレート
4	1963	カラー写真の部	東京	阿部 正二	夏の女
		黒白写真の部	神奈川	今井 イサオ	ポートレート
5	1964	カラー写真の部	東京	藤原 正	花嫁
		黒白写真の部	東京	橋本 清一郎	老夫婦
6	1965	カラー写真の部	広島	岸田 貢宜	ポートレート
		黒白写真の部	東京	藤原 正	母と子
7	1966	カラー写真の部	徳島	立木 利治	卆翁
		黒白写真の部	東京	嶋田 福子	習作
8	1967	カラー写真の部	東京	菅原 幸男	獅子文六
		黒白写真の部	神奈川	長塚 真一	綱脇龍妙師
9	1968	カラー写真の部	青森	矢川 友三	ポートレート
		黒白写真の部	東京	安河内 羔治	Ｎ嬢
10	1969	カラー写真の部	東京	成田 敏男	ポートレート
		黒白写真の部	滋賀	野口 輝雄	西陣の若奥様
11	1970	カラー写真の部	大阪	片山 一郎	Ｙ夫人像
		黒白写真の部	新潟	小熊 和子	20才（はたち）の人
12	1971	カラー写真の部	愛知	滝 不二樹	白いエリの服
		黒白写真の部	千葉	柏崎 育造	ＭＹ ＦＲＩＥＮＤ

「1972年～1975年は、応募を休止した」

回	年	地区	氏名	タイトル
13	1976	東京	幸崎 真一	歓びの日
14	1977	千葉	多田 良文	マーちゃん
15	1978	京都	松本 登	としちゃんと共に
16	1979	群馬	太田 淳佑	談笑
17	1980	岡山	竹原 万奈夫	私は18才
18	1981	三重	大橋 允子	私のねこ
19	1982	愛媛	福山 邦明	いとしご
20	1983	静岡	松山 均	マイフレンド
21	1984	静岡	宮寺 三朗	松永さん
22	1985	福岡	小崎 弘之	親子三代
23	1986	新潟	滝沢 治	かわいい瞳
24	1987	愛知	宮川 哲	僕らのおじいちゃん
25	1988	東京	工藤 時夫	若い二人
26	1989	福岡	多々良 忠志	優衣ちゃんの にっこり百日祝
27	1990	静岡	遠藤 行保	もうすぐママになる利枝さん
28	1991	埼玉	ヤナセ セイジロー	うさぎをだく理絵ちゃん
29	1992	福岡	福森 義宏	万理枝ちゃんのお祝い
30	1993	群馬	太田 康一	近藤先生
31	1994	宮崎	内倉 たけお	弟の上山記念
32	1995	群馬	水澤 正児	弓道範士・井上先生像
33	1996	神奈川	清田 智勝	肖像
34	1997	三重	黒宮 崇志	はるかちゃん
35	1998	大分	谷本 良樹	高木さん
36	1999	秋田	福田 ヒロジ	仲間
37	2000	香川	奥谷 収吉	美しき女性(かた)
38	2001	青森	小田島 幸寿	孫とじいさん
39	2002	東京	柴田 昌勝	Cherry Red & Lemon Yellow
40	2003	東京	富田 豊	友蔵さん
41	2004	愛媛	福山 修	目指せカリスマ
42	2005	千葉	石毛 良二	喜びの日を待つ時
43	2006	神奈川	大井 大	想い出いっぱい
44	2007	大阪	辻 文作	少女剣士
45	2008	東京	石川 孝志	お姉さまといっしょに
46	2009	埼玉	武藤 芳行	フレンズ
47	2010	三重	川地 清広	二十才のサエちゃん
48	2011	東京	後藤 文夫	卒寿
49	2012	福岡	鶴田 一雄	アンバーイメージ
50	2013	東京	オヌキ ヒサシ	フォトグラファー スダ

従来にない新しい表現にチャレンジ

2013富士フイルム営業写真コンテスト表彰式、盛大に開催

2013富士フイルム営業写真コンテスト表彰式は10月16日東京・日比谷の帝国ホテルにて、上位入賞者ならびに入賞作品制作ラボを招いて盛大に開催しました。

表彰式に先立ち、富士フイルム㈱の中嶋社長が「上位入賞の皆様、おめでとうございます。日頃のたゆまぬ努力と、技術・感性の向上意欲の結晶だと思います。皆様に敬意を表します」と話したうえで、このコンテストに対しては「今年で50回目を迎え、11,000点を越える応募をいただきました。入賞作品を拝見しましたが、お客様の大切なかけがえのない人生の記録、記念の思い出作りに取り組んでおられ、大変素晴らしい仕事だと思いました。従来にない新しい写真表現にチャレンジしている作品も多く、写真も時代とともに変わっていくなかで、時代を引っ張っていくという意欲も感じられました。写真館の皆様が日頃からお客様と向き合ってプロならではの卓越した技術と感性を発揮して撮影に取り組んでいる成果だと思います。プロの技術を表現できる品質という意味では、豊かな色調、階調表現、立体感・奥行き感も含めて、私どもの長年培ってきた高画質の銀塩プリントは最高だと自負しています。一昨年の東日本大震災では、私どもも写真救済プロジェクトを実施しましたが、それを契機に写真に対する思いが新たに見直され、出来るだけプリントをしていこうという動きが進んでいると感じます。七五三、成人式など、人生の場面で良い写真を残しておきたいというお客様が増えているという意味で、写真館の皆様が活躍する場面がもっと増えてくると思います。今後も多くの人々に感動と喜びを与えて、いつまでもお客様に親しまれる写真を撮り続けていただきたいと思っています」と挨拶しました。

引き続いて、富士フイルムイメージングシステムズ㈱の小島社長が、コンテストの経過報告として「今回は3,454名の方々から11,190点の応募をいただきました。応募人数は前年比103％で92人増、点数は前年比101％で75点増といずれも増加しました。応募作品のデジタル比率は約90％となり、撮影の多くがデジタルになりました」と応募状況を説明。作品の全体の傾向に関しては「より自由な表現に挑戦した作品が多く、次の時代の写真館を目指すという意欲が感じられました。デジタル化の進展に伴い、新たな発想によるデジタルだから撮れる写真が見受けられ、表現の幅が広がってきているように感じられます。とくに、オヌキ様の金賞作品のように、伝統的な手法だけでなく、大胆な光と構図による表現は、新しい写真館の一つの表現ともいえます。また、デジタル撮影でありながら、フィルムでの階調表現を追求しているような、作品も見受けられます。その写真館でしか撮れない独創的な写真も多くなってきており、頼もしい傾向と感じています」と、従来の写真館のスタイルから脱却し、お客様のニーズに合わせるとともに、撮影者の個性も活かす表現に変わってきていることが指摘されました。

富士フイルム（株）
代表取締役社長・COO 中嶋成博

富士フイルムイメージングシステムズ(株)
代表取締役社長 小島正彦

作品の傾向については「マタニティーフォトが多く寄せられ、家族写真の一つのジャンルとして定着してきた感があります。また家族写真の応募が増え、なかでもお父さんと一緒に撮る写真が増えてきています。部門別には「ポートレート・家族写真は構成に変化を付けた様々な表現に挑戦された作品が多く見られました。」と報告されました。

最後に「写真館の写真は家族の宝物になります。その宝物をプロの意識をもって創り上げていくことが今後ますます求められます。次回もまた意欲あふれる写真を期待します」と総括しました。

これまでと違うビジネスモデルが金賞に結実

この後、表彰式に移り、金賞のオヌキヒサシ氏（東京・Bliss）をはじめ、上位入賞者19名と制作ラボに対して、中嶋社長から賞状、賞金、記念品が手渡されました。受賞者を代表して金賞のオヌキ氏は、関係各位に感謝の意を述べた後「このほどの金賞受賞は、写真館という業界の流れが今後大きく変わっていくのではないか、というような、自分のなかで大きく考えさせられる賞でした。作品を見ていただいても分かるように、今までの写真館のスタイルとは全く違うと思います。これは、私が今撮影しているブランディングフォトというなかでの男性ポートレートです。ブランディングフォトとはどういうものかというと、まず、お客様と１時間ほどカウンセリングを行ったのち、その人の魅力を引き出すように撮影していくというものです。それが認められたと感激しております。写真館のスタイルは衣装・美容があってそのうえに写真があり、写真が一番ではないという流れがあるなかで、当スタジオは家族と大人という今までとは違うビジネスモデルを展開してきました。こうしたスタイルも試行錯誤を繰り返してできあがったものです。これまで、富士フイルム営業写真コンテストにもなかなか入賞できない時期もありまして、コンテスト用の写真を撮っていたこともあったのですが、それを制してくれたのが妻であり『自分のスタイルを曲げてコンテストに入って、それで嬉しいの？』と言われたのを覚えています。彼女の言葉によって今のスタイルを曲げずにここまで来ることができたので、今回の金賞は妻のお陰だと思っています。もう一つ、私には大きな目標があります。ただ単に写真館として写真を撮るだけではなく、写真を通して多くの人を幸せにしたい。写真の素晴らしさを伝えたいという夢があります。それを実現するために本を書いています。自分のレベルをあげて写真業界のために役立つ情報を発信していきたい。そうした目的のなかで今回の受賞は、金賞を目標として撮影をしたのではなく、もっと大きな目的があったのだと感じています。もっと写真を通して人の役に立ちたいと思っていたことが認められたと感じています。これからも自分のスタイルを崩さずに、光、構図、アングルを駆使して新たな写真作りに挑戦していきたいと思っています」と挨拶しました。

金賞の喜びを語るオヌキさん

この後、受賞パーティーが開催されましたが、表彰式の厳粛なムードとは異なり、各々、入賞の喜びで大いに盛り上がりました。途中、恒例となった、受賞者全員による１分間スピーチも行われ、感激のシーンあり、笑いありで、和やかな雰囲気のなか、午後７時に全てのスケジュールが終了しました。

中嶋社長から表彰を受けるオヌキさん

受賞者とそのご家族の皆さん

2013富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品発表展のご案内

東京展
2013年12月6日(金)～12日(木)
10：00～19：00(最終日は16：00まで)
富士フイルムフォトサロン／東京
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 フジフイルム スクエア 1F
TEL. (03)6271-3351

大阪展
2014年1月31日(金)～2月6日(木)
10：00～19：00(最終日は14：00まで)
富士フイルムフォトサロン／大阪
〒541-0053 大阪市中央区本町 2-5-7 大阪丸紅ビル 1F
TEL. (06) 6205-8000

福岡展
2014年2月14日(金)～20日(木)
10：00～18：30　土曜日10：00～16：30 (最終日は14：00まで) 日・祝休館
富士フイルムフォトサロン／福岡
〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-1 富士フイルムビル 1F
TEL. (092) 510-4803

名古屋展
2014年4月18日(金)～24日(木)
10：00～18：00(最終日は14：00まで)
富士フイルムフォトサロン／名古屋
〒460-0008 名古屋市中区栄1-12-17 富士フイルム名古屋ビル 1F
TEL. (052) 204-0830

札幌展
2014年5月16日(金)～21日(水)
10：00～19：00
富士フイルムフォトサロン／札幌
〒060-0042 札幌市中央区大通西6-1 富士フイルム札幌ビル 1F
TEL. (011) 241-7366

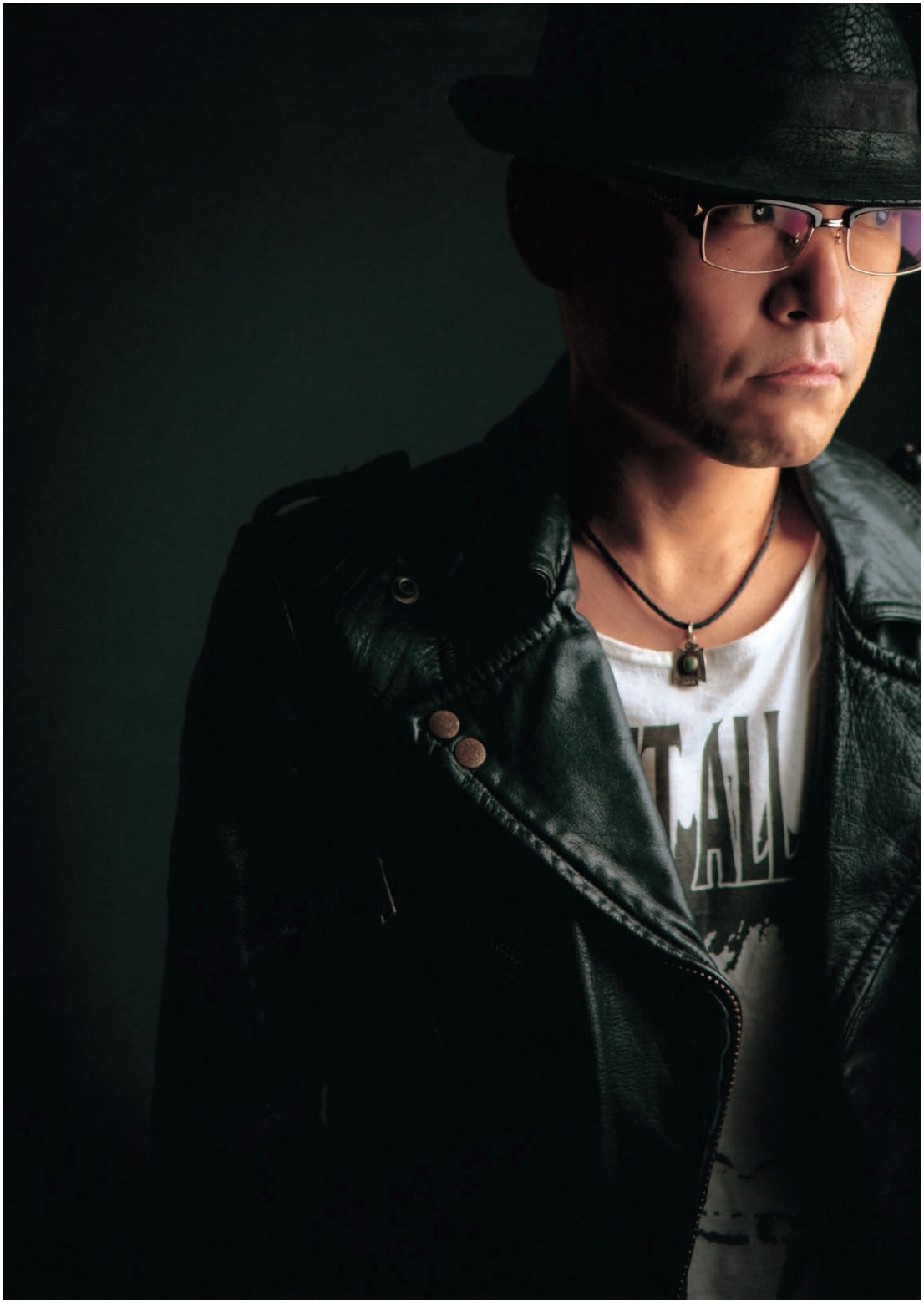
仙台展
2014年5月29日(木)～6月10日(火)
10：00～17：30
富士フイルムフォトサロン／仙台
〒983-0862 仙台市宮城野区二十人町 99 富士フイルム仙台ビル 1F
TEL. (022) 292-0577

2013富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品は富士フイルムホームページでもご覧になれます。
http://fujifilm.jp/promotion/shashinkan/contest/index.html

※本書は本コンテストに応募いただいた写真館様に、お届けさせていただきます。
※本書に掲載の写真の著作権は、各撮影者に帰属します。無断使用、無断転載は一切禁止します。

2013富士フイルム営業写真コンテスト作品集
No.181 スタジオメモ継承
発　行――平成25年12月1日
発行所――〒106－0031　東京都港区西麻布2－26－30
富士フイルムイメージングシステムズ株式会社
フォトイメージング事業部 プロ営業支援グループ　03(5962)6380

FUJIFILM



個を引き出す、新たな挑戦。

2013 富士フイルム営業写真コンテスト 金賞「フォトグラファー スダ」 オヌキ ヒサシ Bliss

新たなニーズを獲得するために日々磨かれる感性と技術。そんな未来を切り開くためのチャレンジを、しっかりと受止めるのが写真館向けプロラボサービスです。銀塩写真ならではのプレミアムな輝きと存在感がここにあります。これからも、富士フイルムは、かけがえのない文化として、銀塩写真の魅力を伝え続けます。

フィルムから、データから、高品位なプリント・アルバムサービス。詳細はお取引ラボにご相談ください。

質を高めるプロラボ利用。
プロフェッショナル専用ペーパーの使用と、常に安定した色管理。出力のプロによる高品位プリントは写真館の信頼性アップに大きく貢献します。

効率を高めるプロラボ利用。
高度な技術が要求されるプリント、お客様の好みによって変わるアルバムへの対応。ラボの利用により、様々な業務の効率化が可能です。

余裕を生むプロラボ利用。
アルバム制作など、撮影後の作業をラボに依頼することで、お客様とのコミュニケーション、スキルアップなどにあてる時間の余裕が生まれます。

フィルムから、データから、高品位な銀塩プリント

写真館向け
プロラボサービス

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社　フォトイメージング事業部　プロ営業支援グループ　〒106-0031　東京都港区西麻布2-26-30　TEL.03(5962)6380